

年度スローガン
～ 笑顔の`わ、みんな で ～



平成30年3月15日

広報 はばたき

第44号

新発田青少年健全育成市民会議

少年団体交歓会 (新発田市青少年宿泊施設・あかたにの家)

わくわく合宿

平成 29 年 10 月 7 日(土)・8 日(日)



バスに乗っていきます！



白熱！防災かるた



みんなで食べると楽しいね



すっかり仲良くなりました



楽しいオリエンテーリング



寄書き交歓「何を書こうかな？」



こんなことをしました！

1 日目

- ・救急法
- ・防災かるた
- ・キャンドルサービス
- ・夕食：アスパラみどりカレー

2 日目

- ・オリエンテーリング
- ・寄せ書き交歓

開所2年目となる新発田市青少年宿泊施設「あかたにの家」で開催されました。健民少年団・ボーイスカウト・緑の少年団・スポーツ少年団・子ども会連合会に所属する児童総勢 57 名が仲良く 2 日間を過ごしました！

楽しい2日間ありがとう！！

青少年健全育成

「市民一斉パトロール」

平成 29 年 11 月 3 日（金・祝） 出発式：ヨリネスしばた（札の辻広場）

啓発場所：市内 7 か所（イオン新発田店・コモタウン・ウオロク東新町店・ウオロク緑店
パテオ西新発田・フレスポ新発田・カルチャーセンター）



（表）

市内の育成協議会で取り組みを行っている標語です

◇ いつものにこころ びりびり笑顔 みんな仲良く 外々続っ子	信ヶ輪小学校区青少年育成協議会
◇ 数えの指 輝く笑顔に 励ましの言葉を！ 絆の輪が・・・	刈羽区青少年育成協議会
◇ 助け合おう 地域みんなで 子供達に	豊後小学校区青少年育成協議会
◇ 助け合おう 大事な友達 宝物	二葉小学校区青少年育成協議会
◇ おはようと その一言で 笑顔の輪	白西小学校区青少年育成協議会
◇ 子供達を 育て 認めて そして守れ	東郷中学校区青少年育成協議会
◇ 人に成れば その笑顔 その笑顔	豊中中学校区すこやか子ども会育てる会
◇ 市民のか みんなで協力 安全社会	川東中学校区自治会教育委員会
◇ あいさつは 輪からほじまる 西郷輪	中郷中学校区すこやか育成会
◇ あいさつで 笑顔の笑顔 秋かせよう	きむろの会（アムール）育成会
◇ 若い時に せせげ 喜びしよ あたためる	豊後地区青少年育成協議会
◇ ありがとう 笑顔なら 思いやり	東郷中学校区青少年育成協議会
◇ あいさつで 笑顔になろう 輝っ子	刈羽川地区青少年育成協議会
◇ おかあさん 目を離さずに そばにいて	赤木小学校区（おん）子ども会育てる会
◇ 育てよう 楽しい笑顔と 輝く輪	豊後中学校区すこやか子ども会育てる会

（裏）

11月の全国「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせ、今年度も小・中学校PTA、各地区青少年育成協議会、関係機関等のみなさん225名にご協力いただき、「ヨリネスしばた」での出発式後、市内7か所にて青少年健全育成活動についてご理解とご協力をお願いしました。呼び掛けに際して、市内各地区育成協議会等からの標語を掲載したクリアファイル（上記参照）を配布しました。

なお、このクリアファイルは、赤い羽根共同募金「地域支え合い活動支援事業助成」により作成させていただきました。

沢山のご協力、ありがとうございました



青少年はぐくみ環境懇談会

平成29年11月16日(木)

テーマ「いじめ ～子どもたちを守るために～」

講師：新発田市教育委員会 学校教育課 課長 萩野 喜弘 氏

〈参加団体等（敬称略）〉

- | | | | |
|----------------|-----------------|-----------|---------------|
| ○新発田児童相談所 | ○新発田警察署生活安全課 | ○市少年補導委員会 | ○市民生委員児童委員連合会 |
| ○新発田阿賀北地区保護司会 | ○新発田地区少年補導員等連絡会 | ○市防犯組合 | ○市小・中学校長会 |
| ○市小中学校 PTA 連合会 | ○新発田青少年健全育成市民会議 | | |

いじめとは何か

昭和61年ごろは「自分より弱い者に対して一方的に肉体的心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」と定義されている。社会一般的にいじめの認識は、この定義に近いと思われる。しかし、現在は「一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為であつて、当該行為の対象となつた児童等が心身の苦痛を感じているもの」と定義されている。つまり、「本人が心理的な苦痛を感じればいじめである」と判断される。相手に加害の意思がなくても、当該児童等がダメージを負つたと感じればいじめになる。家庭で小さいときから人に対する対応の仕方やスキルをきちんと教えないければならないし、学校でも、何がいじめなのかを保護者と共有したうえで、子どもを見守っていく必要がある。

いじめ防止対策推進法

いじめの定義に当てはまっても、相手に悪気のないこともある。その場合は、いじめという言葉を出して指導しないで、友だちとの関

わり方を考えさせるような指導を行う。また、暴行や恐喝など犯罪行為が疑われるものは、関係機関と連携して対応していかなければならない場合もある。

学校では、校内でいじめ対策委員会を組織し、いじめやいじめが疑われる行為に対して、組織的に対応することが求められている。また、児童会、生徒会が中心となつた「いじめ見逃しゼロスクール週間」の取組が各校の実態に応じて実施されている。小中学校の児童生徒が交流しながらいじめについて考えを深めている中学校区もある。

重大事態の疑いが認められるときには事実関係を明確にするための調査を行う事が定められている。重大事態とは「いじめにより児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるとき」「いじめにより児童等が相当の期間（目安30日）学校を欠席すること余儀なくされている疑いがあるとき」である。重大事態の調査は、いわゆる第三者委員会を組織して調査・審議が行われる。欠席日数の30日は、あくまでも目安であり、30日に満たなくても、人間関係の中で悩み欠席していればいじめを疑って調査することもある。

質疑応答

Q. 男女でいじめの性質・やり方は変わるのか

A. 統計があるわけではないが、いじめの行為に性差はあると思う。男子は、からかいや軽く手を出すなど「悪ふざけ」が、女子は人間関係のトラブルから、仲間外しなどが多いように思う。

Q. 心理カウンセラーが市内の小中学校に常駐される予定はあるか
A. 市では現在、ソーシャルスクールワーカー1名、スクール相談員3名、家庭訪問相談員が2名在籍している。また、県からスクールカウンセラーが各校に月2～3日の割合で派遣されている。カウンセラーを常駐させることは難しいと考えている。



青少年健全育成講演会

平成30年1月13日(土) 会場：生涯学習センター

テーマ「為せば成る」

講師：日本文理高校 野球部総監督 大井 道夫 氏



【講師紹介】

- 1959年 宇都宮工業高校のエースとして、第41回全国高校野球選手権大会に出場、準優勝投手となる。その後早稲田大学に進学し、東京六大学野球で活躍
- 1986年 日本文理高校野球部監督に就任。1997年同校を初の甲子園に導き、以降県内の高校野球を牽引
- 2003年 第91回全国高校野球選手権大会にて、決勝戦で名門・中京大中京と熱戦。多くの野球ファンに感動を与えた

要旨抜粋

○栃木から新潟へ

・知人の依頼で新潟の高校野球を強くするため二年契約で新潟の日本文理高校へ。しかし、高校へ赴任すると、設立もない学校ということもあり、野球道具は、不足し、グラウンドや部室等の施設も整備されていなかった。

・部員も、投げれば打たれる、打たれば捕れない状態で、試合をやってもいつもコールド負け。日常生活でも、下を向いているような子どもが多かった。

○輝き始めた子ども達

・高校野球とは何か、甲子園を狙うチームはどんな練習をするのか、子どもたちに見せるため毎週土・日に子ども達を宇都宮の私の母校や強豪校の作新学院へ連れて行く。

・エラーをし、監督に「出ていけ！」と言われでも「やらせてください！」と食い下がる選手の様子を見て、衝撃を受ける子ども達。本気で甲子園を狙う選手の姿に、皆何かを感じたようだった。

・早稲田大学の先輩で、千葉県の印旛高校野球部監督が合同合宿を提案してくれた。春の選抜で準優勝するようなチームと練習できるほど強くない、と申し出を断ろうとしたが御厚意で遠征しに来てくださることに。

・練習合宿をして数日、印旛高校の監督が「日

本文理高校と他校の野球部とじゃ月とすつぽんだ。でも、日本文理の生徒は皆『うまくない』という輝いた目を持っている」と褒めてくれた。それが自信となり、何とか私も頑張ろう、と奮起した。

・最初からやらない理由を探して逃げけるのではなく『やればできるんだ』という気持ちを野球部の部員に持つてもらいたくて、新潟に関係ある人物、上杉鷹山公の「為せば成る」を掲げ、練習に取り組んだ。

○新潟の野球を変える為に

・もともとの契約が2年だった為、「文理に行つたつて大井はいなくなるから行つても無駄だ」と噂されている事を知った。すぐに住民票を栃木から新潟へ移し、自分は本気なのだという事を示したら、中学校の先生方も安心して生徒を紹介してくれるようになった。

・とある人が「早稲田の大井が来たからつて、新潟の野球は変わらない」と言っていることを知った。負けず嫌いな私は甲子園へ行く為に遮二無二練習をした。部員も少ないので土日の練習は保護者に手伝ってもらうなど、チームの為になることは何でもやった。





○部活動を通しての健全育成

・部員には「親に感謝する気持ちがないければ、野球をやる資格はない」とよく言っている。高校生になり、彼らもう子どもではない。野球をやる為にかかるお金がどれほどのものかもわかる。親御さんへの感謝の気持ちを忘れないように言い聞かせている。

・自分の事だけを考えるような者は、野球はおろか社会に出て通用しない。連携すること、みんなの力を合わせる事が頭に入っていないければならない。野球に関しては、グラウンドで試合している者も、スタンドで応援している者も、皆一体となつて戦っている。ユニフォームを着る事だけが高校野球ではない。3年間試合に出ようが出来まいが関係なく、本当に野球部

の為に一生懸命やつたと自分自身褒めてやりたい、そういつて卒業できるような3年間を送ってもらいたい。

・私は試合をやる以上、勝敗にこだわる。でも、小学生には野球の楽しさ、面白さを教えてもらいたい。これはなかなか難しい事だけど、子どもたちが「明日も野球やりたい」「そう思ってくれるような指導をしていただきたい。一生懸命やつた、という事が大事なので



会場前で待っていた少年野球チームを激励する大井総監督



大井監督への質問

Q. 準優勝した試合は大きく点差が開いていたが、あきらめさせない為にどうアドバイスしたのか
A. 9回の攻撃が始まる前「おい、このまま終わるのは癪だろう。少しどうだ、反撃してみろ」という事を言いました。2アウトになって追い込まれた時にムードメーカーが出塁し次が続いていき、そうしてネット裏から外野まで広がる大声援。甲子園が、ああいう雰囲気です。打たせることつてあります。

Q. 問題ありだな、と思う生徒に對してどう指導するか
A. 私はそういう子に對して怒ったことはないです。だって、一生懸命やっているのに。重荷になります。

「せっかく野球部に入ったのだから、やめないで頑張れよ。お前が出来る事はいくらかもあるんだから」とアドバイスします。

講演を聞いて

新発田市少年補導委員

田代 隆子 様

新潟県民に感動を与えた甲子園準優勝の裏での監督の31年間のご苦労や思いを知ることができました。

「高校野球は正に教育そのもの、新潟県の高校で選手が監督を甲子園に、そして優勝旗を新潟に」又、「小学生には、勝敗は二の次で野球の楽しさを教えてほしい」と言われる大井監督の言葉は、他のスポーツや習い事にも共通と思います。

高校野球を応援し、子どもたちの健やかな成長を願う私にとって、有意義な講演会でした。

外ヶ輪小学校PTA 保護者
(学童野球チーム)

佐藤 望 様

「高校野球は教育の一環ではなく、人生教育そのものだ」この言葉の意味を少しずつ、確実に、曲げることなく子供達に伝え続けたことが、甲子園に繋がったのだと講演を聞いて感じました。「野球の試合に負けることよりも人生でつまづき負けそうになる事の方が多い」その時に壁を乗り越えられる人間に育つてくれる様、少年野球運営を通じて子供達と接し伝えていきたいです。

ひとりで悩まないで!～大切な命をみんなで守ろう～

警察庁が公表した昨年 1 年間の全国の自殺者は、21,897 人（速報値）で、8 年連続で減少しているとのこと。県内も、473 人（前年比 72 人減）で全国同様に 8 年連続減少しています。しかし、県内の自殺死亡率（人口 10 万人あたりの自殺者数）は、20.7 人で、依然として全国ワースト上位となっています。また、年齢別でみると、各年代の自殺者が減っている中、19 歳以下だけは、前年の 1.5 倍に増えている状況があります。若い世代は自分から S O S を発信することが苦手な人が多く、一人で思い悩んでしまうケースが少なくありません。家庭や学校だけではなく、社会全体で連携し、若者の悩みにアプローチする努力が必要です。

自殺予防のための 3 つの行動

《気づき》 周りの人のちょっとした変化に気づき、耳を傾けましょう。

- ◆ 発言・行動・体調の変化に注意し、ちょっとしたサインになるべく早く気づきましょう。変化に気づいたら、「眠れてますか？」など、声かけをしましょう。
- ◆ 悩みを話してくれたら、時間をかけて、できる限り傾聴しましょう。
- ◆ 話をそらしたり、訴えや気持ちを否定したり、表面的な励ましをすることは逆効果です。相手の気持ちを尊重し、共感した上で、相手を大切に思う気持ちを伝えましょう。

《つなぎ》 早めに専門家に相談するよう促しましょう。

- ◆ 心の病気の兆候があれば、家族、先生、友人といったキーパーソンの協力を求めましょう。
- ◆ キーパーソンと連携し、相談機関、医療機関の専門家への相談につなげましょう。

《見守り》 温かく寄り添いながら、じっくりと見守りましょう。

- ◆ 身体や心の健康状態について自然な雰囲気ですべてをかけて、あせらず優しく寄り添い見守りましょう。
- ◆ 必要に応じ、キーパーソンと連携をとり、専門家に情報を提供しましょう。

相談連絡先一覧

【新潟県こころの相談ダイヤル】	0 5 7 0 - 7 8 3 - 0 2 5
【新潟いのちの電話（新発田）】	0 2 5 4 - 2 0 - 4 3 4 3
【24 時間子ども S O S ダイヤル】	0 1 2 0 - 0 - 7 8 3 1 0
【新潟県いじめ相談メール】	ijime@mailsoudan.org
【新潟県いじめ相談電話】	0 2 5 4 - 2 6 - 7 5 0 9

※ いずれも毎日 24 時間受付しています。



あとがき

今回の「はばたき」が平成二十九年度の最終になります。この号がお手元に届くころには、春の気配が感じられていることでしょう。この冬は、例年になく早く強い寒波の襲来になりました。日本列島の各地で、積雪や気温が観測史上初や何十年かぶりを記録するというニュースが流れました。そんな中でも、多くの子どもたちは、自らの足で学校へと歩を進めていました。冬は、歩行者にとってはつらい季節です。安全に歩けない道、消雪パイプの水をはね上げて走る車。運転する側の心配りや優しさが問われる季節でもあります。

春の訪れとともに厳しい冬のことを忘れるのではなく、冬に培った、互いを思いやる心を、それぞれの季節でも表せたらよいと思います。子どもたちは、四月からの新たな始まりに向けて羽ばたく準備をしていることでしょう。しっかりと家庭地域で見守っていきましょう。

（編集委員 前田 清）

発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六〇八九七

編集委員

猿子 洋司 前田 清
小出 隆一 水野 善栄
遠山 明美